

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会総合部会

■ 日 時 令和8年3月19日(木) 午後3時～午後3時50分

■ 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町

■ 出席者 22人

〈鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）〉

清水部会長、岡田・松田・皆川各委員

○オブザーバー

健対協：瀬川副会長、秋藤・池田各理事

鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課：荒金局長、角田課長

川本室長、松原係長

健対協事務局：岡本事務局長、田中貴・田中尚両係長、岩垣主任、廣瀬主事

〈鳥取県西部医師会館〉

孝田・小谷・鈴木・中村・濱本・八島各委員

挨拶（要旨）

〈清水部会長〉

本日はご多忙のところ総合部会にご参集いただき、深く感謝申し上げます。

今年度2回目となる本日の会議においても、引き続き忌憚のないご意見を願います。

報告事項

1. 令和6年度各種健康診査実績等について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

○各がん検診の受診者数及び受診率は、令和6年度は胃がん、子宮頸がん、肺がんはともに増加したが、乳がん、大腸がんは減少した。

○年齢階級別では、昨年度と同様に男性よりも女性の受診者数が多く、70歳以上では男性の受診率の方が高い。算定年齢ごとの受診率の比較では、69歳までの受診率が高い傾向にあり、近年同様の傾向である。

○プロセス指標新基準（上限74歳）に基づく評価で、各部位において達成した項目は下記の通り

であった。

胃がん：要精検率

子宮頸がん：要精検率、陽性反応適中度

乳がん：精検受診率、がん発見率、陽性反応適
中度

大腸がん：要精検率

○令和2年度～令和4年度市町村の未把握率実績値及び令和6年度精密検査受診率について、令和6年度精密検査受診率の目標値90%以上を達成しているのは乳がんのみだった。未把握率は大腸がんが他部位と比べて高い傾向にあった。

2. 各部会・専門委員会の協議概要について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
令和6年度各種健康診査実績等、令和7年度実績見込み、令和8年度事業計画は、別表のとおり報告があった。

また、各部会・各専門委員会の主な報告・協議事項は以下のとおりであった。

(1)胃がん部会・胃がん対策専門委員会

○令和6年度の受診率は26.3%、胃がん検診における内視鏡検査の実施割合は85.5%。X線検査の

要精検率は6.8%であった。

○令和6年度胃がん検診発見がん患者確定調査の結果、確定胃がんは158例（一次検査がX線検査：5例、一次検査が内視鏡検査：153例）、がん発見率は0.331%であった。

○今後の市町村胃がん検診実施体制変更への対応等について、令和11年度に実施体制を変更すると仮定し、移行スケジュールを確認した。令和8年度の夏部会で、手引きの改正案や住民向け周知チラシの作成案、人間ドックと同時実施時の対応などについて検討することとなった。

○国の指針に基づき、県胃がん検診手引きの問診項目に「妊娠の有無・妊娠の可能性の有無等の聴取」を追加し、令和8年度検診からの適用が承認された。また、現在の受診票の問診欄は、消化器がん検診学会のマニュアルの禁忌・対象除外要件を参考に作成しているが、スペースの限界があることや項目を増やしすぎると受診者が読まなくなる懸念もあるため、別紙での禁忌・対象除外要件の情報提供や会場掲示、市町村からの案内文への同封など、今後情報提供の方法を検討することとなった。

(2)子宮がん部会・子宮がん対策専門委員会

○令和6年度は受診率25.3%、要精検率0.52%、精検受診率71.1%、がん発見率0.006%、陽性反応適中度1.3%であった。

○令和6年度子宮がん検診発見がん患者確定調査は、子宮頸がんは1例（I B期以上）、子宮体

がんは9例であり、子宮内膜増殖症は0例であった。

○皆川委員長から夏部会において承認された「HPV検査単独法による子宮頸がん検診導入に向けたワーキンググループ活動」の一環として、ワーキンググループメンバーと情報共有した内容が報告された。鳥取県では、LBCの導入や結果判定の一元化等、HPV検査単独法の検診体制の一部は既に整っているものの、先行して導入されている横浜市などの取り組みや追跡精検の受診率等のデータを参考にしながら、導入について慎重に検討を進める必要がある。また、今年度、県内の多くの市町村が国の補助事業を活用し、HPV検査単独法導入に伴う健康管理システムの改修を行った。引き続き、県内市町村の健康管理システムの改修状況や標準準拠システムへの移行時期、国の推進する自治体検診DX等の動向を注視していく。

(3)肺がん部会・肺がん対策専門委員会

○令和6年度は、受診率29.2%、要精検率3.38%、精検受診率86.2%で、原発性肺がんは29人発見され、がん発見率0.055%、陽性反応適中度1.6%であった。

○令和6年度肺がん検診発見がん予後調査の結果、原発性肺がん41例、転移性肺腫瘍3例であった。

○有効性評価に基づく肺がん検診ガイドラインが19年ぶりに改訂（2025年度版）され、重喫煙者

数年間の住民周知期間を設け、令和11～13年から国指針に変更する

(段階的な移行ではなく、周知期間を設け、一回の改正で国指針に合わせる)

	今 後	国指針（参考）	県現行（参考）
内視鏡検査 （個別）	—	—	対象者：40歳以上 受診間隔：定めなし（毎年）
	対象者：50歳以上 受診間隔：隔年（2年に1回）	対象者：50歳以上 受診間隔：隔年（2年に1回）	
胃部X線検査 （個別、集団）	対象者：40～49歳 受診間隔：隔年（2年に1回）*	対象者：40～49歳 受診間隔：隔年（2年に1回）*	
	対象者：50歳以上 受診間隔：隔年（2年に1回）*	対象者：50歳以上 受診間隔：隔年（2年に1回）*	

※要検討

※当分の間は毎年実施可

に対する胸部X線検査と喀痰細胞診併用法による検診が推奨グレードD（以前はB）となった。さらに、重喫煙者に対する低線量CT検査の有用性が示され推奨グレードAとなり、対策型および任意型として推奨されることになった。以上を受けて、事前に県内市町村に今後の肺がん検診について意向調査等を行った上で、鳥取県における肺がん検診のあり方を以下のとおりとすることとなった。

1. 非喫煙者・軽喫煙者に対して

・40歳以上を対象に1年に1回の胸部X線検査を行う

2. 重喫煙者に対して

（重喫煙者とは喫煙指数600以上（一日平均喫煙本数×喫煙年数）で現喫煙者と禁煙後15年以内の人とする）

・40歳以上を対象に1年に1回の胸部X線検査を行う

・50歳～74歳は任意で1年に1回の胸部CT検査を薦める（任意型）

※胸部CT検査は低線量（2.5Gy以下）で行う必要がある（胸部X線検査は不要；費用は自費）

・喀痰細胞診検査は廃止する。

また、喀痰のある者は検診ではなく医療機関受診を勧奨する。

(4)乳がん部会・乳がん対策専門委員会

○令和6年度は受診率14.9%、要精検率6.38%、精検受診率91.3%、がん発見率0.48%、陽性反応適中度7.5%であった。

○令和6年度乳がん確定調査の結果、確定症例は77例であった。年代としては70代が最も多かった。発見がん患者の平均年齢は65.0歳と令和5年度より3歳上昇した。

○令和7年度にJA共済連鳥取と共催でピンクリボンキャンペーン（受診率向上及びブレストアウェアネスの周知を目的とした情報発信、広報イベントの開催等）を開催した。JA共済連鳥取は、令和8年度も同様のキャンペーンを計画

している。

○乳がん検診一次検査医療機関及び精密検査医療機関登録について、要綱に基づき、令和7年度中に更新及び新規登録を行うことについて承認を得た。講習会の開催数が少なく、登録基準を満たす点数の取得が難しい実態を踏まえ、一部の講習会の受講点数引き上げについて了承を得た。

○乳がん検診における読影医・放射線技師の資格未更新や不在が判明し、今後は名簿の照合や更新期限確認を徹底し、必要に応じて指導・検診医療機関登録抹消を検討することとなった。

○事業所検診において、20～30代の若年層にマンモグラフィ検査が実施されているケースがあり、適切な受診年齢の周知徹底が求められた。

(5)大腸がん部会・大腸がん対策専門委員会

○令和6年度は受診率28.2%、要精検率7.6%、精検受診率は74.8%、がん発見率0.26%、陽性反応適中度3.37%であった。

○検診で発見された大腸がん及びがん疑い144例について確定調査を行った結果、確定がん132例（地域検診30例、施設検診102例）、腺腫1例、その他11例であった。

○令和6年度冬部会において、大腸がん精密検査結果、その他の疾病の内訳、大腸がん治療方法内訳のデータを活用した大腸がん検診精密検査受診勧奨チラシ作成の提案があった。現在、受診勧奨チラシはNPO法人ブレイブサークルや厚労省共同発行の「希望の虹プロジェクト」などが作成されており、令和8年度は県内11市町村が活用予定である。県はこれらの状況を踏まえ、各自治体が住民に応じた受診勧奨チラシを作成する際、自由に活用できるよう鳥取県データを円グラフ化したものを市町村に提供することを検討している。委員からは分かりやすい表現への見直しやシンプルにグラフをまとめるのが良いなどの意見があった。

○大腸がん精密検査医療機関登録更新について、実施要綱の一部改正案（地区で開催される検討

会等の受講点数の見直しに加え、新たに「鳥腸の会」を対象に追加)が提示され、承認された。今年度中に更新及び新規登録手続きを行う。

- 大腸がん検診における大腸CT検査の実施数報告について、市町村に照会した結果、数値報告不可の回答が複数あったため、現時点ではとりまとめて報告することは困難と報告された。今後のCT検査の動向を確認しつつ、将来的な数値把握に努めていくこととなった。
- 現時点での大腸がん検診におけるCT導入は難しく、最新の検診ガイドラインでも死亡率減少効果が明確に示されているのは便潜血検査であり、陽性者を確実に内視鏡検査につなげることが最も効果的とされている。当面は現在の大腸がん検診(便潜血検査)の受診率と精密検査受診率の向上が最優先であると共有された。

(6)肝臓がん対策専門委員会

- 令和6年度肝炎ウイルス検査は、対象者数206,594人、受診者数は3,940人、受診率は1.9%であった。精検受診者は18人(令和7年10月末現在)であり、精検受診率は46.2%(前年度比16.8ポイント減少)であった。
- 令和6年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査の結果、肝炎ウイルス検査により発見された肝臓がんは1名であった。肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者に対するの定期検査により発見された肝臓がんは、B型肝炎ウイルス陽性者から2名、C型肝炎ウイルス陽性者から5名であった。
- 2025年にBMJにおいて報告されたCOREスコアは、年齢・性別・AST・ALT・GGTの5項目のみでMALO(主要な肝有害転帰)リスクを予測でき、血小板が不要で健診データだけで算出できる点が大きな利点。令和8年度は日野町の特定健診受診者全員のCOREスコアを算出し、リスク分布を検証する予定。
- 令和8年度の事業は令和7年度の肝炎・肝がん関連事業を継続実施。一部、非ウイルス性肝疾患に対する高リスク者の定期検査費用助成につ

いては、定期検査受診行動の促進につながらなかったことから、3年間のモデル事業としての評価を踏まえ、令和7年度で終了する。

- 肝炎対策協議会では、肝炎ウイルス陽性者が適切な肝炎医療につながるよう非専門医との連携体制強化について検討しており、鳥取県の現状を把握するため県内医療機関等に対してアンケート調査を実施した。今後、専門医へ紹介しやすくするための簡易版紹介状やフォーマットの作成を検討していく方針である。
- (7)循環器疾患等部会・生活習慣病対策専門委員会
- 鳥取県における特定健康診査及び受診率の推移について、令和5年度の受診率は56.4%であり、年々上昇傾向にある。また、保健指導実施率は28.4%であり、以前は横ばいであったが令和2年度から上昇傾向である。
- 令和8年度事業として生活習慣病検診等精度管理委託事業、循環器病対策推進事業、糖尿病・慢性腎臓病(CKD)予防対策事業、ココカラげんき鳥取県推進事業等を継続実施する。その他事業として、新規に「鳥取方式フレイル予防対策推進事業」を実施する。働く世代(ミドルエイジ)への取り組み推進、マンガによる普及啓発、市町村が実施するフレイル予防への取り組み支援などを行う。

3. その他

- ・令和6年がんの75歳未満年齢調整死亡率及び5年生存率について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長 国立がん研究センターが令和6年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、男女計65.5(全国28位)で、昨年の62.9(全国17位)より増加し、県第4次がん対策推進計画(R6～R11)の目標値(61.0)を超過した。男性83.7(全国34位)、女性47.5(全国6位)であった。また、子宮がんの死亡率は2.6(全国2位)であった。

また、平成28年から開始された「全国がん登録」のデータを活用した平成28年～平成30年診断症例

の5年純生存率が公表され、主な部位の鳥取県男女計の5年純生存率は、乳房が89.3%と最も高く、続いて子宮70.5%、大腸69.2%、胃68.8%、肺42.4%で最も低かったのは、肝臓の42.2%であった。

(※純生存率：対象とするがん患者と同じ性、年齢、カレンダー年、診断時住所（都道府県）の一般集団の期待死亡率で、当該がん患者の死亡確率を調整したもの)

(委員からの意見)

女性のすい臓がんが増加しており、今後のすい臓がん検診の方向性について質問があった。委員より、増加しているのは確かだが、早期発見が難しく、死亡率減少効果のハードルも高いが県民への周知は必要ではないかとの意見があった。

・県の来年度当初予算について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
がん対策推進事業の令和8年度予算案について報告があった。これまで医療費等支援事業のウィッグや補正下着等の購入費用の助成対象者はがん患者だけであったが、脱毛症患者も対象とするため、昨年度予算より240万円程度予算規模を拡大し計上している。

協議事項

1. がん検診情報の一体的な把握について：

松原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正（令和7年7月1日）により、令和8年4月から職域等のがん検診受診情報の一体的な把握が市町村の努力義務となったことを受け、本県の方針検討のため、県内市町村における取り組み状況や課題、他県の検討・対応状況に関する情報を収集した結果が示された。

県内市町村からは、発生する労力や費用に対して、正確な情報を得られる可能性が低いことなどの課題が上がるとともに、近隣県においても同様の課題により、本取り組み実施に対して消極的な

姿勢であることが分かった。引き続き、全国の情勢や国の自治体検診DX等の動向について情報収集を行う。

(委員からの意見)

職域等のがん検診受診率が住民検診より低く、若年層の多忙さや受診勧奨の不足が要因と考えられるとの意見があった。また、職域等の受診情報を市町村が把握し、受診勧奨に活用すべきとの指摘があった。

2. その他

(1) 令和7年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会等開催状況

今年度から、胃がん及び大腸がん検診従事者講習会を合同開催にしたところ、受講者数が多く、来年度以降は会場規模等への配慮が必要となった。また、肝臓がんについては鳥取県医学会と合同開催とした。なお、来年度も令和8年7月12日に開催予定の鳥取県医学会と合同開催する予定である。また従事者講習会の開催方法に関して、Web受講できるようにしてほしいとの意見があった。

(2) 鳥取県がん検診実績報告書について

健対協では、毎年「鳥取県がん検診実績報告書」を作成し、冊子として送付してきたが、今後も冊子の発行および送付を継続するかについて検討を行った。同内容は健対協ホームページにも掲載していること、また事前に県内市町村へ意見を伺ったところ冊子送付を希望したのは6市町村のみであったことを踏まえ、委員から意見を求めた。その結果、来年度以降の冊子製本および送付については、引き続き協議していくこととなった。

(3) 読影会当日の対応について

各地区読影会では、当日朝に担当医へ電話確認を行ってきたが、読影会を担当する鳥取県保健事業団より、負担が大きいことから当日の電話確認を取りやめるとの報告があった。

令和6年度実績、令和7年度実績（中間）、令和8年度計画について

(単位：人 %)

区 分		令和6年度実績	令和7年度実績見込	令和8年度計画		
胃 が ん 検 診	対 象 者 数 (人)	181,414	181,414	181,414		
	受診者	X 線 検 査 (人・率)	6,919 (3.8)	7,837 (4.3)	7,910 (4.4)	
		内 視 鏡 検 査 (人・率)	40,833 (22.5)	40,761 (22.5)	41,236 (22.7)	
		合 計 (人・率)	47,752 (26.3)	48,598 (26.8)	49,146 (27.1)	
	X 線 検 査	要 精 検 者 数 (人)	468	/	/	
		要 精 検 率 (%)	6.8			
		精 密 検 査 受 診 者 数 (人)	379			
		精 検 受 診 率 (%)	81.0			
	検診発見がんの者(がんの疑い)	153 (52)				
	検 診 発 見 が ん 率 (%)	0.32				
	陽性反応適中度 (X線検査)	1.07				
	確定調査結果 (確定癌数・率)	158 (0.33)				
	子 宮 頸 部 が ん 検 診	対 象 者 数 (人)	121,933			121,933
受 診 者 数 (人)		30,820	31,633			32,082
受 診 率 (%)		25.3	25.9			26.3
要 精 検 者 数 (人)		159	/			/
判 定 不 能 者 数 (人)		16				
要 精 検 率 (%)		0.52				
精 検 受 診 者 数 (人)		113				
精 検 受 診 率 (%)		71.1				
検診発見がんの者(がんの疑い)		2 (53)				
検 診 発 見 が ん 率 (%)		0.006				
陽 性 反 応 適 中 度		1.3				
確定調査結果 (確定癌数・率)	1 (0.003)					
肺 が ん 検 診	対 象 者 数 (人)	181,414		181,414	181,414	
	受 診 者 数 (人)	53,048		53,742	53,706	
	受 診 率 (%)	29.2	29.6	29.6		
	要 精 検 者 数 (人)	1,794	/	/		
	要 精 検 率 (%)	3.38				
	精 検 受 診 者 数 (人)	1,546				
	精 検 受 診 率 (%)	86.2				
	検診発見がんの者(がんの疑い)	30 (108)				
	検 診 発 見 が ん 率 (%)	0.05				
	陽 性 反 応 適 中 度	1.6				
確定調査結果 (確定癌数・率)	44					
上記のうち原発性肺がん数・率	41 (0.08)					

区 分		令和6年度実績	令和7年度実績見込	令和8年度計画		
乳 が ん 検 診	対 象 者 数 (人)	109,121	109,121	109,121		
	受 診 者 数 (人)	16,307	17,296	17,576		
	受 診 率 (%)	14.9	15.9	16.1		
	要 精 検 者 数 (人)	1,040	/	/		
	要 精 検 率 (%)	6.38				
	精 検 受 診 者 数 (人)	950				
	精 検 受 診 率 (%)	91.3				
	検診発見がんの者(がんの疑い)	78 (1)				
	検 診 発 見 が ん 率 (%)	0.48				
	陽 性 反 応 適 中 度	7.50				
	確定調査結果(確定癌数・率)	77 (0.47)				
大 腸 が ん 検 診	対 象 者 数 (人)	181,414			181,414	181,414
	受 診 者 数 (人)	51,133			52,731	53,104
	受 診 率 (%)	28.2			29.1	29.3
	要 精 検 者 数 (人)	3,893	/	/		
	要 精 検 率 (%)	7.6				
	精 検 受 診 者 数 (人)	2,911				
	精 検 受 診 率 (%)	74.8				
	検診発見がんの者(がんの疑い)	131 (13)				
	検 診 発 見 が ん 率 (%)	0.26				
	陽 性 反 応 適 中 度	3.37				
確定調査結果(確定癌数・率)	132 (0.26)					

○検診発見がんの者(率)：精密検査の結果、がんとして診断された者です。

()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上。

※確定癌数(率)：精密検査の結果、がん及びがん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会が確定調査を行い、最終的に確定癌とされた者です。

(1) 令和6年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

区 分	対象者数	受診者数	受診率	HBs 陽性者	HCV 陽性者	HBs 陽性率	HCV 陽性率
肝炎ウイルス検査	206,594	3,940	1.9%	36	3	0.9%	0.1%

(精密検査)

区 分	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	肝臓がん	肝臓がん疑い	がん発見率
肝炎ウイルス検査	39	18	46.2	1	0	0.025%

令和7年度実績見込3,875人、令和8年度計画3,930人

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査状況

(単位：人 %)

区分	健康指導対象者	定期検査受診者数	定期検査結果			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,915	888	159 (17.9)	9 (1.0)	5 (0.6)	0 (0.0)
C型肝炎ウイルス陽性者	562	242	23 (9.5)	3 (1.2)	6 (2.5)	5 (2.1)

プロセス指標新基準による算定 (令和6年度実績)

※**下線太字**は、基準値をクリアした項目

			新基準(上限74歳)									
			胃(X線)		子宮頸			肺		乳		大腸
			検診間隔2年	検診間隔1年	年齢区分			検診以外の受診を考慮	連続受診を考慮			
			対象年齢	50-74歳	20-74歳	20-39歳	40-74歳	40-74歳	40-74歳		40-74歳	
一次検診	対象者数(人)	①	82,259	82,259	66,572	12,812	53,760	95,752	95,752	53,760	53,760	95,752
	受診者数(人)	②	4,396	4,396	27,480	5,886	21,594	31,668	31,668	13,669	13,669	32,825
	受診率(%)	③=②/①	5.3	5.3	41.3	45.9	40.2	33.1	33.1	25.4	25.4	34.3
一次検診結果	要精検者数(人)	④	292	292	153	75	78	919	919	901	901	2,152
	要精検率(%)	⑤=④/②	6.64	6.64	0.56	1.27	0.36	2.90	2.90	6.59	6.59	6.56
	新基準値		7.7%以下	7.6%以下	2.5%以下	4.2%以下	1.9%以下	2.4%以下	2.3%以下	6.5%以下	6.4%以下	6.8%以下
精密検査	精検受診者数(人)	⑥	240	240	109	57	52	791	791	826	826	1,618
	精検受診率(%)	⑦=⑥/④	82.2	82.2	71.2	76.0	66.7	86.1	86.1	91.7	91.7	75.2
	新基準値		90%以上									
精密検査結果	がんの者(人)※	⑧	3	3	15	4	11	12	12	60	60	58
	がん発見率(%)※	⑨=⑧/②	0.07	0.07	0.05	0.07	0.05	0.04	0.04	0.44	0.44	0.18
	新基準値		0.19%以上	0.11%以上	0.15%以上	0.18%以上	0.14%以上	0.10%以上	0.05%以上	0.40%以上	0.31%以上	0.21%以上
	陽性反応適中度(%)※	⑩=⑧/④	1.0	1.0	9.8	5.3	14.1	1.3	1.3	6.7	6.7	2.7
	新基準値		2.5%以上	1.5%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.3%以上	4.1%以上	2.2%以上	6.1%以上	4.8%以上	3.0%以上

※新基準では、子宮頸がんのがん発見率と陽性反応適中度は、CIN3以上に対する値

(参考)

			新基準(上限69歳)									
			胃(X線)		子宮頸			肺		乳		大腸
			検診間隔2年	検診間隔1年	年齢区分			検診以外の受診を考慮	連続受診を考慮			
			対象年齢	50-69歳	20-69歳	20-39歳	40-69歳	40-69歳	40-69歳		40-69歳	
一次検診	対象者数(人)	①	50,494	50,494	49,063	12,812	36,251	63,987	63,987	36,251	36,251	63,987
	受診者数(人)	②	3,094	3,094	24,172	5,886	18,286	19,735	19,735	11,042	11,042	21,371
	受診率(%)	③=②/①	6.1	6.1	49.3	45.9	50.4	30.8	30.8	30.5	30.5	33.4
一次検診結果	要精検者数(人)	④	186	186	150	75	75	519	519	780	780	1,283
	要精検率(%)	⑤=④/②	6.01	6.01	0.62	1.27	0.41	2.63	2.63	7.06	7.06	6.00
	新基準値		7.1%以下	7.0%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	6.2%以下
精密検査	精検受診者数(人)	⑥	151	151	107	57	50	442	442	719	719	972
	精検受診率(%)	⑦=⑥/④	81.2	81.2	71.3	76.0	66.7	85.2	85.2	92.2	92.2	75.8
	新基準値		90%以上									
精密検査結果	がんの者(人)※	⑧	2	2	13	4	9	5	5	45	45	33
	がん発見率(%)※	⑨=⑧/②	0.06	0.06	0.05	0.07	0.05	0.03	0.03	0.41	0.41	0.15
	新基準値		0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.28%以上	0.16%以上
	陽性反応適中度(%)※	⑩=⑧/④	1.1	1.1	8.7	5.3	12.0	1.0	1.0	5.8	5.8	2.6
	新基準値		1.9%以上	1.1%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	2.6%以上

※新基準では、子宮頸がんのがん発見率と陽性反応適中度は、CIN3以上に対する値